

家庭科の取り組み

テーマ：献立作成から論理的思考力を育てる

目標：・食品群別摂取量に基づいた献立を考えることができる。
・ライフステージにあった食事計画を立てることができる。

身に付けたい力：②論理的思考力 ③課題解決力

1. はじめに

平成29年度の1年生から食物分野において5年間、取り組みを実施しました。授業で学んだ知識をいかに論理的思考力と課題解決力に結び付けていくか「模擬家族の献立作成」を通して取り組んでいきました。

2. 取組内容

食生活の分野で学んだ栄養・食品・調理などに関する知識を活かして、ライフステージにあった家族の献立作成をグループごとに実施する。作成後、グループでの発表を通して献立作成をするうえで必要な、栄養や食品、調理法などの知識を再確認する。また、グループごとの発表を通して、ライフステージにあった献立作成を熟考することで課題に対する解決力を向上させる。

また、ルーブリック評価をすることで生徒及び教員の振り返りと課題を確認する。

3. 取組状況

- ・献立を食品群別摂取量の目安をもとにグループごとに考えることで、栄養、食品、調理などについて科学的に考えることができるようにした。
- ・献立作成をするうえで、模擬家族を設定して、ライフステージごとの食事計画を考えることができるようにした。
- ・調理実習の献立も、食品群別摂取量の目安をもとに、栄養の過不足を考えることができるようにした。

【ルーブリック】

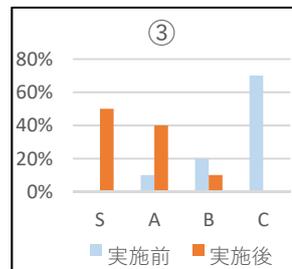
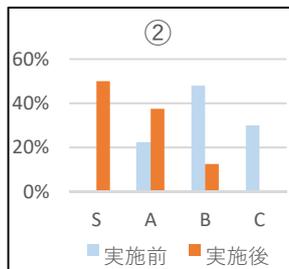
身に付けたい力	目指す生徒像	S	A	B	C
② 論理的思考力	献立作成について論理的に考え判断することができる。積極的に表現することができる。	献立作成について論理的に考え判断することができる。適切に表現することができる。	献立作成について論理的に考え判断することができる。	献立作成について論理的に考えることができる。	献立作成について論理的に考えることができない。
③ 課題解決力	家族構成によるライフステージごとの栄養課題を考えた献立を作成し、説明することができる。	家族構成によるライフステージごとの栄養課題を考えた献立を作成することができる。	ライフステージごとの栄養課題を考えた献立を作成することができる。	栄養課題を考えた献立を作成することができる。	栄養課題を考えた献立を作成することができない。



4. 生徒の感想

- ・家族構成を考えて献立作成をすることができた。調理本から具材や量を考えて過不足がないようにすることが難しかった。
- ・家族構成が大人数の家族で、お年寄りから子供までいたので、誰でも食べやすい献立を作成した。
- ・このような授業は、みんなで協力して課題に取り組むと、他の人がどんな考えをもっているかよくわかると思った。

【実施前】⇒【実施後】



5. 考察

生徒に提示した様々な家族構成・家族状況で、どのような献立が、食品群別摂取量を満たし、献立としてより良いものとなるかグループで考えていた。また、他のグループの発表を聞くことにより、課題をどのように解決するか考えることができた。多くの生徒が、これまでの授業で学んだ栄養・食品の知識を活かした献立作成をすることで、論理的思考力と課題解決力を身に付けることができた。生徒のルーブリック評価からもわかるように、授業実施後の評価が実施前よりも概ねよりよい評価となっていることがわかる。

しかし、週に2時間という限られた時間の中で、いかにより効果的な授業を実践するかが課題であると思われる。

6. おわりに

SPH事業での5年間を通して、知識をいかに論理的思考力と課題解決力という生徒の生きる力としていかに取り組んでいった。評価等を通して授業後の生徒の変容を感じることができた。しかしながら、まだ課題も多数ある。今後も食物分野のみならず他の分野での取り組みも行っていきたい。